

令和4年度
全国学力・学習状況調査の結果概要

忠岡町教育委員会

令和4年度 全国学力・学習状況調査 忠岡町結果概要公表について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年

- 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
(令和4年4月19日に調査を実施した学校・児童数 大阪府979校 71,212人)
- 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年
(同学校・生徒数 大阪府469校 66,964人)

(3) 調査の内容

- ①教科に関する調査 ・小学校等 【国語・算数・理科】 ・中学校等 【国語・数学・理科】
- ②質問紙調査 ・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

(4) 今年度調査の特徴

- ・今年度の教科に関する調査は、国語、算数、数学に加えて理科を4年ぶりに実施。
- ・今年度は一部、児童生徒質問調査を学習用端末を使ったオンラインによる回答を実施（本町は実施無し）
- ・可能な限り、多くの児童生徒が同じ条件で参加できるよう、新型コロナウイルス感染症や、非常変災等による後日実施を設定。後日実施の期間については、4月20日（水）以降5月20日（金）までの約1か月間で実施。

(5) 調査の方式 悉皆調査

(6) 調査を実施した忠岡町の学校・児童生徒数

- 実施校数 ・小学校：2校
- 実施児童生徒数 ・小学校：132人
- ・中学校：1校
- ・中学校：122人

公表に関する配慮事項について

令和4年度 全国学力・学習状況調査実施要領に基づき、次の点に配慮し公表する。

- 忠岡町教育委員会は、保護者や地域の住民に対し、町内における教育及び教育施策に関する説明責任を果たす観点から、調査結果を公表する。
- 本調査の目的及び調査結果が学力や学習状況、生活状況の特定の一部である。
- 学校ごとの児童生徒の学力の結果が明らかになる公表は行わない。
- 本町は、公立中学校が1校であるため、町教育委員会において公表することが、学校単位の公表となるため、中学校の学力の結果は非公表とする。
- 本町の特徴的な課題と改善方策を公表する。

全体の概要について I（学力に関する調査より）

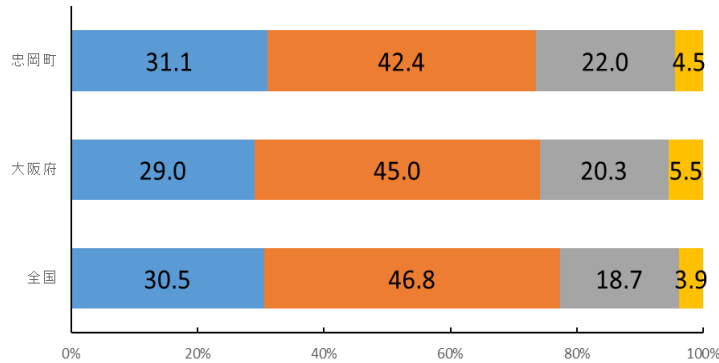
- 【小学校国語】互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることや、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることに課題。
- 【小学校算数】数量が変わっても割合は変わらないことへの理解や、比例の関係を用いて未知の数量の求め方と答えを記述することに課題。
- 【小学校理科】実験等で得た情報を、他者の気づきの視点や問題の視点等で分析して、解釈し、自分の考えをもち、記述することに課題。
- 【中学校国語】自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことや、根拠を明確にして書くことに課題。
- 【中学校数学】「関数」領域では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること、「図形」領域では、筋道を立てて、事柄が成り立つ理由を説明することに課題。
- 【中学校理科】ばねを押すときの力の働きや水の状態変化に関する知識及び技能に課題。
考察に対して多面的、総合的に検討し改善することに課題。

全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町令和4年度の重点取り組みにかかる概要～

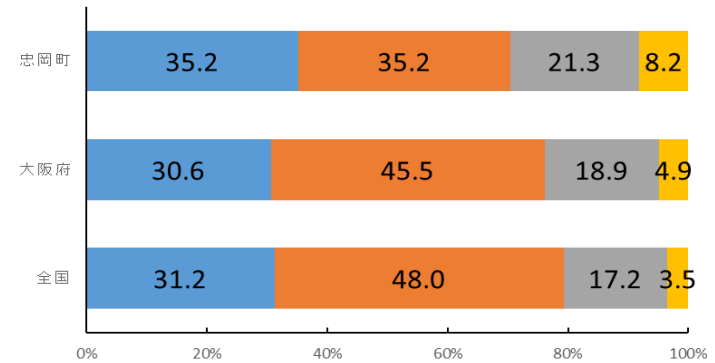
①【自ら考え取り組む子を育てる】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか」

小学校・中学校ともに「あてはまる」の割合が全国・大阪府に比べて高いが、否定的評価「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」の割合も高く、二極化の傾向と言える。

小学校 ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■その他



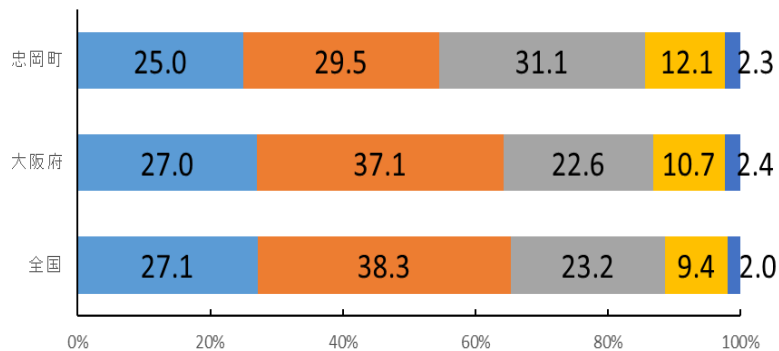
中学校 ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■その他



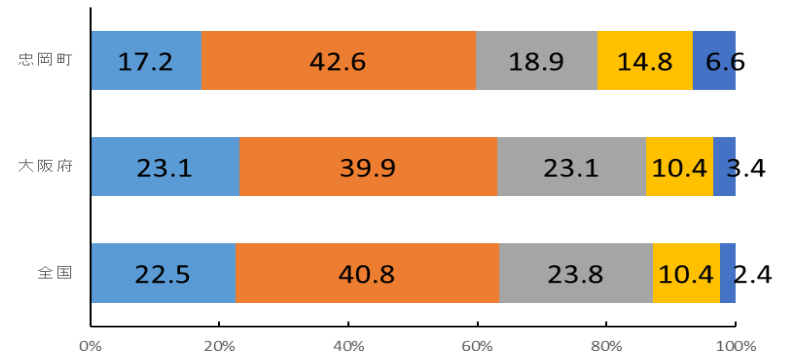
②【授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす】「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」

肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は、小学校・中学校ともに、全国・大阪府と比べると低く、課題である。

小学校 ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■その他



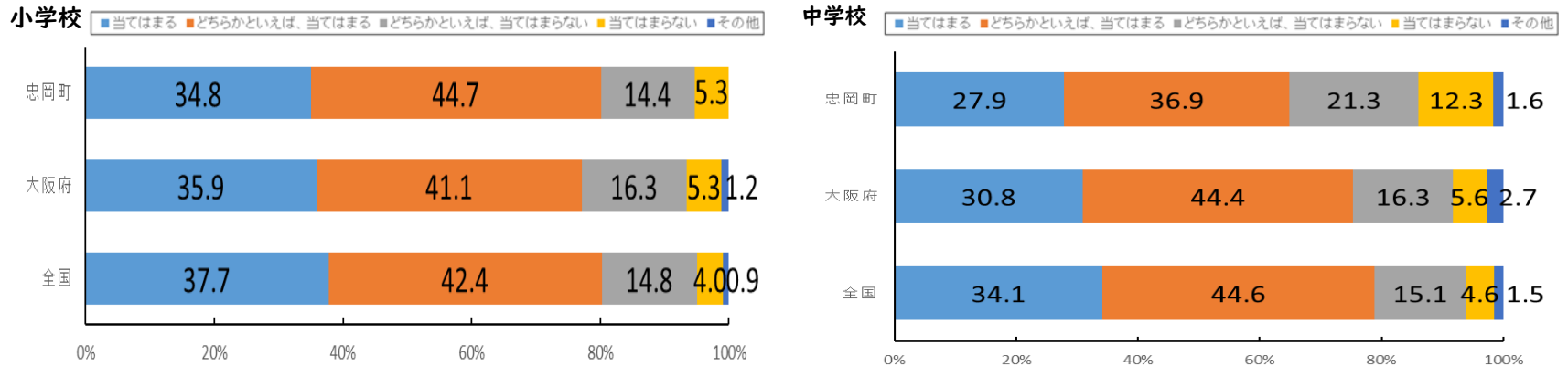
中学校 ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■その他



全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町令和4年度の重点取り組みにかかる概要～

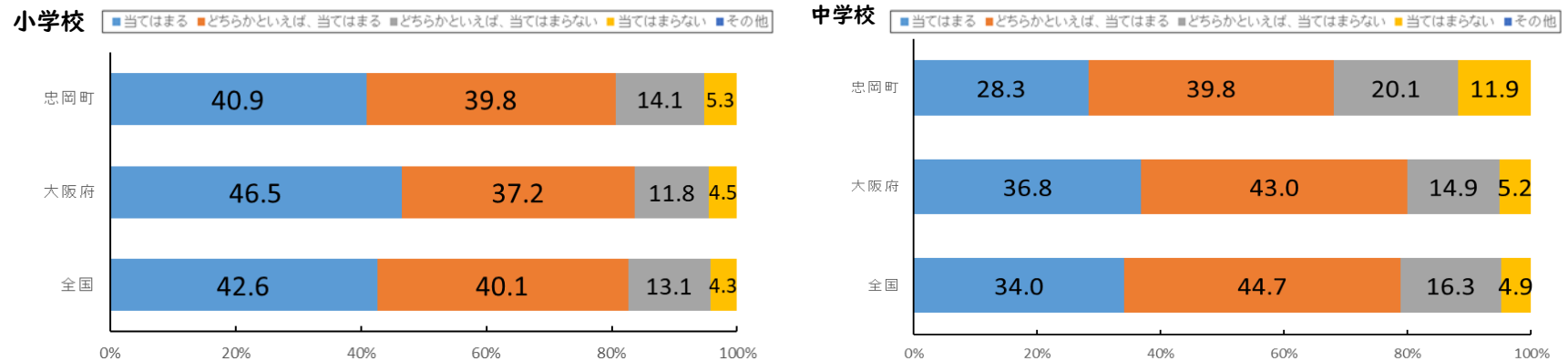
③【授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす】 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか」

小学校においては、大阪府と比べて肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が高く、改善傾向であるが、中学校においては、全国・大阪府と比べて低く、課題である。



④【授業内容がわかる子どもをふやす】 「算数（数学）・国語の授業の内容はよくわかりますか」・・・算数（数学）と国語の合算データ

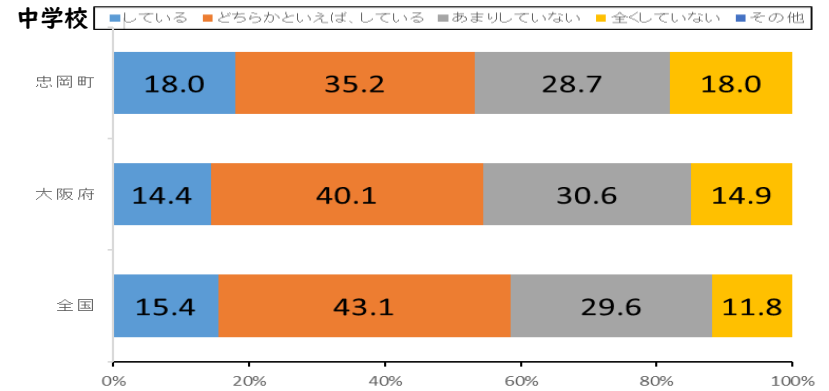
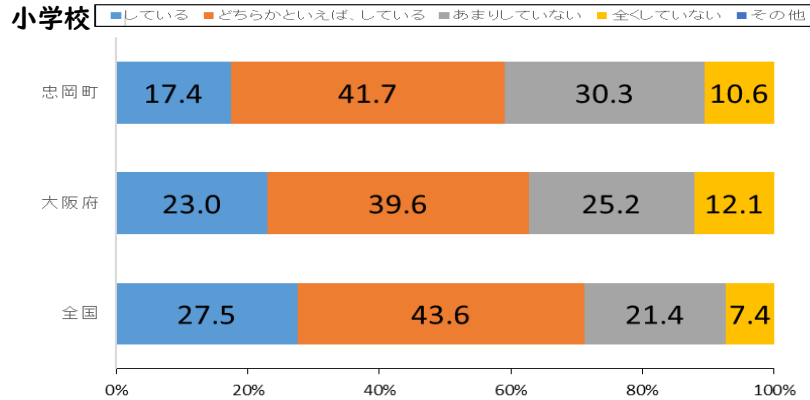
肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は、小学校・中学校ともに、全国・大阪府と比べると低く、課題である。



全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町令和4年度の重点取り組みにかかる概要～

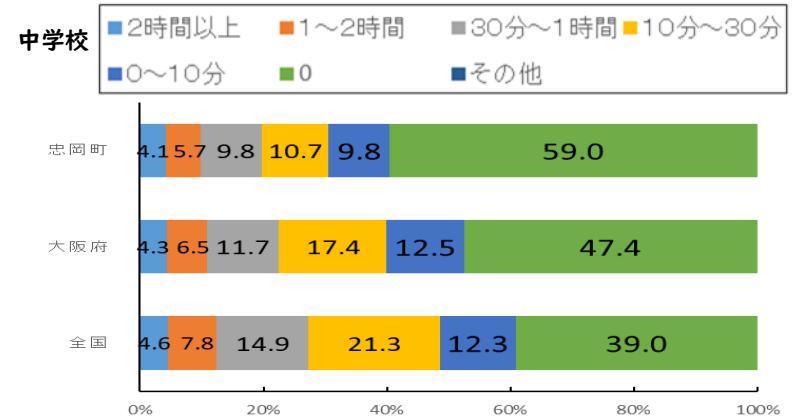
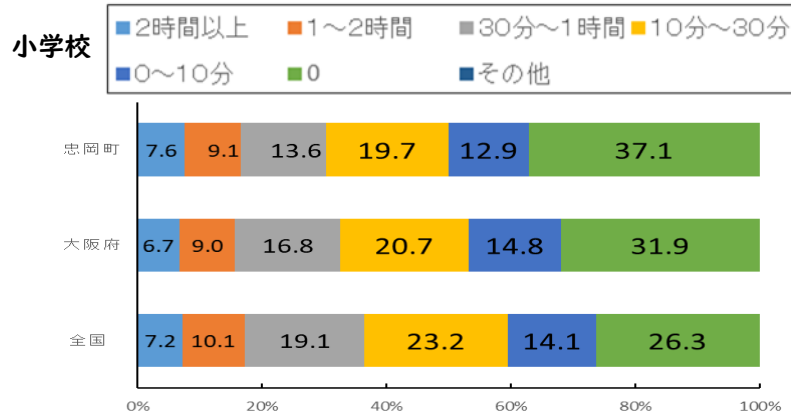
⑤【家で計画的に学習する子どもたちを育てる】「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」

肯定的評価「している」「どちらかといえばしている」の割合は、小学校・中学校ともに、全国・大阪府と比べて低く、課題である。



⑥【読書に親しむ子どもたちを育てる】「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」

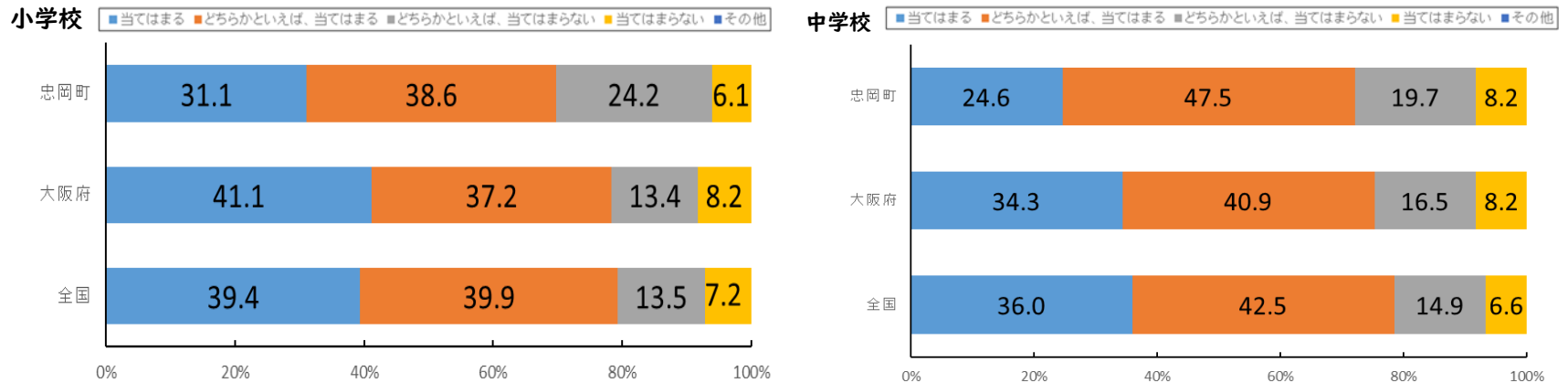
「0分」「0～10分」の割合が小学校・中学校ともに5割を超え、全国・大阪府と比べても高く、課題である。



全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町令和4年度の重点取り組みにかかる概要～

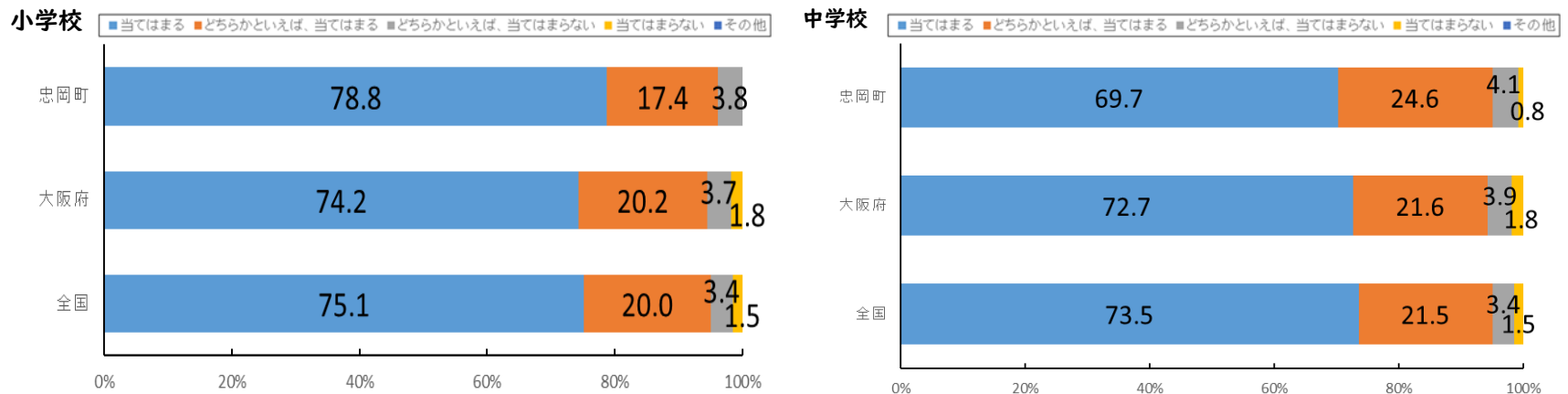
⑦【自分にはよいところがあると思う子どもたちを育てる】「自分には、よいところがあると思いますか」

肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は、小学校・中学校ともに、全国・大阪府と比べると低く、自己肯定感を高めていくことが課題である。



⑧【人の役に立つ人間になりたいと思う子どもたちを育てる】「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」

肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は、小学校・中学校ともに高く、小学校においては「当てはまらない」の割合は0であり、自己有用感が高まっていると言える。



忠岡町における学力・学習状況に関する施策

- 忠岡町授業改善推進事業（全小・中学校）・・・小・中学校における教育内容の充実と指導方法の工夫改善を図っています。
- 学ぶ楽しさを育む推進事業（小1・2）・・・小学校1・2年生児童に落ち着いた学習環境の提供と基礎的・基本的な内容の確実な定着を図っています。
- 忠岡町きめ細やかな指導のための講師配置事業（全小学校）・・・支援学級在籍児童を含めた1学級の合計児童数が法律に定める基準を超える場合、非常勤講師を配置して、少人数学級編制を実施しています。
- 学力向上サポーター配置事業（小3・4）・・・基礎・基本の定着を図り、「確かな学力」を育むためのきめ細やかな学習支援を行っています。
- 小学校読書活動推進事業（全小学校）・・・小学校に司書を配置し子どもたちの興味関心を高め、本に接する機会を増やしています。
- 学力検査CRT（小3・4）・・・児童の基礎・基本における学習のつまづきの把握と効果的な指導につなげています。
- 小・中学校児童生徒学校生活意識調査〈Hyper-QU〉（小5・中2）・・・よりよい学級集団づくりに向けた課題を把握することにつなげています。
- 授業力向上支援・・・教員の授業力向上に向けた授業観察、及び指導・助言を行っています。
- 授業力向上のための教員研修・・・教科・領域・校種の枠をこえた授業改善と校内研修を活性化につなげています。
- 忠岡町授業改善に向けての連絡会・・・学力にかかわる情報共有と各校における学力向上を推進しています。
- 小・中学校生徒指導連携会議・・・小・中学校の9年間を見通した取組の共有と連携を推進しています。
- 忠岡町英語教育推進事業・・・小・中学校教員の英語指導力を高めるために、研修等を実施しています。

忠岡町立忠岡小学校

小学校 国語 立場を明確にしながら自分の意見をまとめる。

考えられる成果と課題

○自分の考えをふりかえりなどで書くことに慣れてきている。

●条件に合わせて書くことに慣れていない児童が問題を敬遠している。

正答率 47.5%
無解答率 17.5%

正答率は、全国平均と同じくらいだが、無解答率が全国の5倍程度

2 二 と 3 二 の記述問題も同様。

これからの指導の方向性

☆【複数の条件】がついた作文や短文づくりの宿題などを出して取り組ませる。

☆授業の中で、要約や登場人物の気持ちを描かせるときにも【複数の条件】をつける。

課題が見られる設問

- 1 四 岡さんは、話し合いの様子の一部】の口で、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで話そうとしています。あなたが岡さんなら、どのよう話しますか。その内容を次の条件に合わせて書きましよう。
- 条件
- 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を考えて書くこと。
 - 話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 書き出しの言葉に続けて、五十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。

小学校 国語 表現の効果を考える。

考えられる課題

●物語の全体像をとらえることが苦手な部分がある。

正答率 52.5%
全国正答率 59.2%

正答率が全国と比べて
5ポイント以上低い。

2 二 と 3 二 の記述問題も同様。

これからの指導の方向性

☆初見の物語や説明文で全体像をとらえられるように、要旨をまとめるような活動を取り入れる。

課題が見られる設問

2 三 同じ学級の山村さんも、銀色の幻想」を読み、せいせんする文章を書いていきます。次の「山村さんの文章」の□の中に入ります。内容として最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

小学校 算数 最小公倍数を求める

課題が見られる設問

1 (2) 14と21の最小公倍数を書きましょう。

考えられる課題

●整数の性質などについて理解していない部分がある。

正答率 60.0%
全国正答率 72.2%

正答率が全国と比べて
10ポイント以上低い。

これからの指導の方向性

☆単元が終了した後も、朝学習や家庭学習などで、問題に取り組ませる。

☆約分や通分は、公倍数や公約数の考えが使われていることに着目させる。

小学校 算数 考えや解き方をもとにして説明したり考えたりする。

成果が見られる設問

- 1 (3) カップケーキ7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけについて考えます。そのわけを【ゆうとさんの説明】とおなじように、言葉と数を使って書きましょう。

- 3 (4)も、【〇〇さんの求め方】をもとにしてという設問であり、全国平均を上回っている。

考えられる成果

○教科書や友達の説明を参考にして、自らも同じように説明する力がついてきている。

正答率 87.5%
全国正答率 76.0%

正答率が全国と比べて10ポイント以上高い。

これからの指導の方向性

はじめから自分の考えを説明することが難しい児童に対して、穴埋めではなく、数字を変更した同じような問題の説明をヒントとして与え、その説明と同じようにして説明させる支援を行う。

小学校 理科 実験の過程や結果を記録する。

課題が見られる設問

3 (2) 実験をしながら【結果】を記録しました。【問題】を解決するために最も適切な記録はどれですか。下の1から4までの中から1つ選んでその番号を書きましょう。

考えられる課題

●複数の資料から、最も重要な点はどの部分かを判断する力

正答率 61.0%
全国正答率 74.4%

正答率が全国と比べて
10ポイント以上低い。

これからの指導の方向性

☆複数の資料などから、大切な部分を見つけることができるように意図的に多くの資料を用意する。

小学校 理科

自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる

課題が見られる設問

2 (4) はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけました。はるとさんはどのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

正答率 29.3%
無解答率 19.5%

正答率が全国と比べて
10ポイント低い。

考えられる課題

●観察、実験の方法を具体的に見通して解釈する力

これからの指導の方向性

☆友達の気づきや実験の結果から、どんなことが分かったか、どんなことに疑問を持ったかを具体的に説明する場面をつくる。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(21)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)

考えられる課題

●学習時間より、スマートフォンなどを操作する時間が多くなっている。

1時間以上が

51.2%

(全国 59.4%)

これからの指導の方向性

家庭でも学習することの大切さを指導する。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(23) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

考えられる成果

● 読書をする習慣がついている児童が増えている。

30分以上が
41.5%
(全国)36.4%

これからの指導の方向性

ビブリオバトルなど、読書を好きになる活動を増やす。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(38) 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

考えられる成果

● 組み立てを考えて発表する機会が増えた。

肯定的回答が

70.7%

(全国 65.4%)

これからの指導の方向性

授業以外でも、委員会活動などの発表をする機会を増やし、話の組み立てを工夫するように指導していく。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(43) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。

考えられる成果

● 話し合う活動を通して、自分たちで様々なことを決定する習慣がついている。

当てはまるが

56.1%

(全国 37.7%)

これからの指導の方向性

行事等を進めるうえで、教師主導ではなく、児童主体ですすめていく力をつけるように指導する。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(5) 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。

考えられる課題

●スマートフォンやゲームをする時間が長い。

3時間以上が
43.9%
(全国 30.7%)

これからの指導の方向性

児童に対して、長時間することの害などについて指導する。
入学説明会で保護者に呼びかける。
学年通信や学校通信などを使って保護者に呼びかける。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(35)学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。

考えられる成果

●タブレットを使い、自分の考えをまとめる力がついてきている。

週3回以上が

51.2%

(全国 21.7%)

これからの指導の方向性

学校全体を通して、使える部分はタブレットの使用を取り入れていく。

忠岡町立東忠岡小学校

小学校 国語【伝え合いの様子の一部】を基に、 【文章2】のよさを書く

考えられる課題

- 文章に対する感想をもち、伝え合う力
- 自分の考えをまとめ、条件に合った文章を書く力

正答率 29.7 %
無解答率 14.3 %

正答率は、全問中最も低い
無解答率も、記述問題の中で最も高い

これからの指導の方向性

- ☆ 文章を読み合い、付箋などを活用して文章のよさや改善点を交流する場を多く設定する。
 - ☆ タブレットを活用し、文章を読み合う・交流する活動の負担を軽減する。
 - ☆ 文字数制限の中で記述する活動に慣れる。
- #### 日々の授業で特に重点を置くところ
- ☆ 文章を書かせた後、「この言葉は大切だね」「接続語をうまく使えているね」等、評価や改善点を児童に的確に伝え、次の表現活動にどう生かしていくか見通しを持たせる。(ふりかえりカードに記録させる)
 - ☆ 文の組み立ての型を提示する。(結論→根拠など)

課題が見られる設問

3 一 島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことにしました。

あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。条件に合わせて書きましよう。

文章2】のよさを書くこと。

文章2】から言葉や文を取り上げて書くこと。
六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

小学校 国語 【話し合いの様子の一部】における 発言の理由として適切なものを選択する

考えられる**成果**

○話し言葉と書き言葉の
違いを意識する力

○同音異義語について理
解する力

正答率 85.7%
無解答率 0.0%

正答率は、全問中最も高い
(全国85.5%、大阪84.0%)
無解答者もなし

これからの指導の方向性

☆「話す」活動では常に相手を意識して言葉を選ぶよう
心がけ、強調する・繰り返す・言葉を言い換える等の
技術を習得させる。

☆言葉にこだわった授業づくりを意識し、意味の似た言
葉、同音意義語、反対の意味の言葉等、理解した上で用
いることができるよう朝の学習などで取り組む。

成果が見られる設問

1 話し合いの様子の一部【で、谷原さんが
| 部アのように発言した理由として 最も適
切なものを、次の1から4までの中から一つ選
んで、その番号を書きましよう。

成果が見られる設問

2(1) オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物があります。

飲み物の量をもとにしたときの、果汁の量の割合を分数で表しましょう。

考えられる成果

○百分率と分数との関係を理解する力

正答率 70.3 %

無解答率 0 %

★正答率が大阪府平均より高い
無解答者もなし

(全国 71.1% 大阪 69.3%)

これからの指導の方向性

☆日常の場面に対応させながら割合について理解するよう指導を工夫し、自分なりに図や言葉を用いて基準量・比較量の関係を表す活動を数多く取り入れる。

☆自分の考えや解き方をわかりやすく伝えるために必要な要素は何かを意識させて文章にまとめる。ペアやグループで問題に取り組むことでよりわかりやすい解き方・立式を追究させていく。

小学校 算数 示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ

課題が見られる設問

4(4) 【ひろとさんがつくったプログラム】を実行すると、どのような図形をかくことができますか。
下から1つ選んで、その番号を書きましょう。

考えられる課題

- プログラミングとして命令を実行する力
- 図形の構成要素を正しく理解する力

正答率 45.1%

無解答率 5.5%

★正答率が全国平均と比べて最も差が開く。無解答率も全問中一番高い。

(全国 57.6% 大阪 56.1%)

これからの指導の方向性

☆「プログラミング的思考」に慣れ、ICTを活用して命令の組み合わせを習得させる。(左に○度回転等)図形が苦手な児童には特にタブレット操作で図形の構成要素を視覚的に理解させる。

☆「図形」単元を系統的に整理し、指導内容の重点事項を全校で確認する。

日々の授業で特に重点を置くところ

☆授業の構造化を再確認し、「見通す」段階で、既習事項をどう使えば課題に対する答えを導けるか、児童が整理する時間を持つ。前時の学習で学んだ内容を理解できているか、以前どんな内容を学習したかの振り返り時間を大切にする。

小学校 理科 一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く

成果が見られる設問

2(1) たろうさんは、実験で使用する砂糖水と食塩水をつくるために、水50mLを右のような器具を使ってはかりとることにしました。たろうさんが使った器具の名称を書きましょう。

考えられる成果

○理科室内の器具について、普段から積極的に触れていること
○実験に関する説明を丁寧に行い、児童が理解してから実験に移っていること

正答率 73.6%

正答率が全国・大阪平均よりも高い

(全国 67.8% 大阪 64.1%)

無回答率 2.2%

(全国 9.8% 大阪 10.8%)

これからの指導の方向性

☆「理科が苦手」という児童が少なくない(「理科の勉強は好きですか」・・・当てはまる38%)ので、実験や観察等意欲的に活動できるよう内容を工夫する。

☆実験結果について自分が気づいたことを明確にし、次なる問題や疑問を見いだすことができるような授業構成を考える。

小学校 理科 鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く

課題が見られる設問

4(4) よしこさんは、2つの現象を調べて、次のようにまとめました。□にあてはまることばを書きましょう。

朝、鉄棒に、水てきや氷がついていた。気温が下がり、空気中の□が冷やされて、水てきや、水てきになったあと氷になる現象が見られた。左の写真は「つゆ」、右の写真は「とうろ」というらしい。気温のちがいによって異なる現象が起こることがわかった。

考えられる課題

●水の状態変化について、日常生活と関連させながら理解すること

正答率 31.9%

全国平均と比べて、全問題中一番差が開いている。

(全国 62.0% 大阪 54.1%)

これからの指導の方向性

☆実験→分析→まとめという流れで終わらせず、実験や観察で得た知識をより自分の生活と関連付けて理解できるようにする。日常生活との関わりの中でとらえ直す場面は必ず設定し、普段から身の回りの事象を意識する習慣をつける。

日々の授業で特に重点を置くところ

☆過去の既習内容をこまめに振り返り、今学習している内容との関連や、日常生活との関わりを意識させる。得た知識を日常生活に関連づけて理解できるよう授業計画を工夫し、他教科との関連や各学年の系統性も配慮して指導する。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます。)

考えられる課題

● 家庭学習の習慣が定着していない児童が一定割合存在する。

1日あたりの勉強時間が全くしない	8.7%
1時間未満	45.6%

これからの指導の方向性

- ・「全くしない」と回答した児童が見られたので、引き続きその児童への学習支援を続けるとともに、その児童の保護者へ家庭学習の習慣づけを担当から呼びかけていく。
- ・1時間未満の回答率が昨年度より増加しているため、本校で継続して取り組んでいる「家庭学習チャレンジ週間」「家庭学習の手引き」の取り組みを持続させ、児童への指導、保護者への啓発を進め、主体的・計画的に学習する習慣づけを進めていく。
- ・今後はeライブラリを使用する家庭学習の機会をより多く設定できるよう、家庭との連携を図っていく。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(23)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

考えられる課題

- 読書の習慣が身につけていない児童が4割いる。
- 全体的に読書時間がかなり少ない。

1日あたりの読書時間が	
全くしない	40.2%
10分より少ない	13.0%
10分～30分	21.7%

これからの指導の方向性

- ・本校が取り組んでいる「目指せ！読書100冊」や「朝読書」の取り組みを今後も継続し、読書に対する意欲を高めていく。それとともに、より読書に関心を持って取り組めるような指導・取り組みを考えていく。
- ・本校が取り組んでいる「家庭学習チャレンジ週間」に今後も継続して取り組み、より家庭での読書に対する意識を児童・保護者ともに高められるよう、啓発を進めていく。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(38)授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

考えられる成果

●ICTなどを活用し、発表する際に工夫すべきポイントを繰り返し指導しているため、児童への意識化へつながっている。
(昨年度より6ポイント上昇)

「発表していた」「どちらかという
と発表していた」を合わせて
46.7%

これからの指導の方向性

- ・本校が取り組んでいる「授業の構造化」を継続し、自力解決したことを主体的に発表し、話し合い活動を行う時間を確保していく。
- ・自分の考えを論理的にまとめる力をつける。
- ・授業での話し合う活動において、取り組む過程や姿勢を大切に評価していくことで、積極的に話し合い活動に参加し、自らの考えを深めたり、広げたりしようとする意欲を高めていく。ICT機器を効果的に利用する。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(43)学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。

考えられる成果

- 様々な形態(ペア・トリオ・グループ等)で話し合う活動を行うことで、より自分の考えと友達の意見とを比べて考えやすくなっている。「聞き方名人」指導の効果
- 話し合い活動への積極的な参加が成果として表れている。

- 1 「当てはまる」が 25.0%
 - 2 「どちらかと言えば当てはまる」が 48.9%
- (合計で昨年度より 10%上昇)

これからの指導の方向性

- ・本校が取り組んでいる「授業の構造化」を継続し、めあてや見通しを持って授業に取り組む、ふり返りにより次の学習へのつながりを持たせることで、主体的に話し合い活動に取り組もうとする意欲を高めていく。
- ・学び合いにより他の児童との比較により自らの意見を深める機会を持つとともに、互いに認め合い、協力していく姿勢を育てる指導を進めていく。
- ・自分の考えを伝えたり、他者の考えを知る手立てとして、ICTを積極的に活用していく。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(40)授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

考えられる成果

- 本校重点目標「根拠をもって自分の考えを表現する」をふまえ、考えをまとめる活動に数多く取り組んだ成果と考えられる。
- まとめた自分の考えを表現する場を設定し、意見交流を活発に行った。

- 1 「当てはまる」が 27.2%
- 2 「どちらかと言えば当てはまる」が 42.4%(大阪府平均より高値)

これからの指導の方向性

- ・本校が取り組んでいる「授業の構造化」を継続し、めあてや見通しを持って授業に取り組む、ふり返りにより次の学習へのつながりを持たせることで、主体的に話し合い活動に取り組もうとする意欲を高めていく。
- ・学び合いにより他の児童との比較により自らの意見を深める機会を持つとともに、互いに認め合い、協力していく姿勢を育てる指導を進めていく。
- ・自分の考えを伝えたり、他者の考えを知る手立てとして、ICTを積極的に活用していく。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(7)自分には、よいところがあると思いますか。

考えられる課題

●自分の存在価値を前向きに受け止められる力が低いことによる、課題に立ち向かう意欲の低さ

- 1 「当てはまる」が 25.0%
- 2 「どちらかと言えば当てはまる」が 42.4%

これからの指導の方向性

- ・学習や生活、行事などにおいて、児童が到達感を実感できるような適切な課題を設定し、それに向けての達成や努力に対して積極的に「ほめる」指導を進めていく。
- ・児童の自己肯定感を高めていくために、児童の存在自体を「ほめる」ことで、失敗よりも成功に向けて前向きに取り組める子、自らの課題に敢然と立ち向かえる子の育成を目指す。
- ・縦割り活動「レインボータイム」の取り組みを通して、自己有用感を高め、成功体験や自分の役割意識を感じられる場を増やす。

忠岡町立忠岡中学校

中学校 国語 表現の技法について理解しているかどうかをみる。

考えられる成果

● 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使えている。

正答率	62.0%
全 国	52.5%

正答率が、全国の値より良かった問題です。
(差 9.5%)

これからの指導の方向性

☆ 国語の教科書に載っている学習教材を使った授業を行う中で、表現技法を細かく確認していき、さらなる知識の定着をはかる。

☆ 自分自身の考えなど作文を書いたり、俳句などの作品を作る中で、表現技法を使っていき応用力をつける。

成果が見られる設問

- 3 ー 本文中の陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書きなさい。また、それと同じ表現が用いられているものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 だだ、と、おれは思う。」
- 2 ブルーシートを地面に広げ、真ん中に立てた大きなパラソルの下で涼む人。」
- 3 猫のように素早く手を出し」
- 4 むっともっと前の話だと説明する。」

中学校 国語 論理の展開などに注意して聞くことができるかどうかをみる。

考えられる課題

●論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができていない。

正答率 48.8%
全国 65.1%

正答率が、全国値と一番差があった問題です。(差 -16.3%)

これからの指導の方向性

☆論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができていないため、班活動等の中でもっと自分の意見をまとめ発表し、相手の考えに対して意見を述べる活動を増やす。

☆説明的な文書を読む中で、段落ごとのつながり、理論のつながりを意識させることで、「読解力」を養う。例えば、今回の問題では、話し手の話したいことは、「インターネットの利便性」か「やりとりをスムーズに行なうこと」なのかを読みとる力と、それに合わせた具体例として、どちらを取り上げるのが効果的かを考え判断する力をつけることである。

課題が見られる設問

- 1 二 始めに話したこととつながっている点が良い」と述べていますが、これを具体的に説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 インターネットの 利便さを実感している」との例として、総合的な学習の時間での自分の経験を挙げている点が良い。
- 2 インターネットの 利便さを実感している」との例として、友達が話してくれた言葉を挙げている点が良い。
- 3 やりとりをスムーズに行いにくい」ということ例として、総合的な学習の時間での自分の経験を挙げている点が良い。
- 4 やりとりをスムーズに行いにくい」ということ例として、友達が話してくれた言葉を挙げている点が良い。

中学校 数学 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する事ができるかどうかをみる。

成果が見られる設問

8(2) 座標平面上にある一定の割合で増加する8つの点から、y座標の値がある値に達する時のx座標の値を求める方法を説明する。

8(2) 愛理さんは、7日目までの取り組みの結果から、目標を達成できるのがおよそ何日目になるかを予測することにしました。

そこで、下の二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、原点Oから点Gまでの点が一直線上にあるとし、このまま同じように取り組みを続け、二酸化炭素削減量の合計が一定の割合で増加すると仮定して考えることにしました。

このとき、目標の300kg削減を達成できるのがおよそ何日目になるのかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に何日目になるかを求める必要はありません。

考えられる成果

● 比例、反比例について、数学的活動を通して、具体的な事象を捉え考察し表現することができている。

正答率 36.9%
全 国 38.4%

全国正答率と比較すると一番差が小さかった問題です。
(差 -1.5%)

これからの指導の方向性

☆ 実験結果から予測する問題であるために、理科的な知識も取り入れながら考えていく必要がある。教科横断的な連携もしながら、グラフの読み取り方、分析等を継続的に指導の中に取り入れていかなければならない。

☆ 答えを求めるのではなく求める方法を説明する問題なので、普段から答えを求めるだけでなく、なぜそのように考えたのか、求め方を問う指導も継続的に取り入れていかなければならない。

中学校 数学 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができかどうかをみる。

課題が見られる設問

8(1) 家庭でできる二酸化炭素削減の取り組みと削減量について調べました。そして、家庭でできる二酸化炭素削減の取り組みの中から、生徒それぞれの家庭でできることを選んで取り組むことにしました。1日ごとの学級30人分の削減量をもとに、取り組みを始めた日の前日を0日目とし、 x 日目までの二酸化炭素削減量の合計を y kgとして、表にまとめ、表の x 、 y の値の組をグラフに表しました。

二酸化炭素の合計の記録のグラフにおいて、点Eの座標を書きなさい。

考えられる課題

●比例、反比例について、数学的活動を通して座標の意味を理解することができていない。

正答率 39.3%
全 国 54.6%

正答率が、全国の値と一番差があった問題です。(差 -15.3%)

これからの指導の方向性

☆8つの座標を書いている表と8つの点が打ってあるグラフがあり、グラフのある点がどの座標かを考える問題で、それほど難しくない。与えられた座標から座標平面上に点を打つことの方が多く、その逆も同じように学習する必要がある。

☆無解答が21.3%もいるので、数学的な点で出来ていないというよりは、問題が長くしっかり読めていない、問題の意味が分かっていないと思われる。問題文が長い問題もしっかり読み、問題の意味が分かれば解けるという事を理解させたい。

中学校 理科 飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる。

成果が見られる設問

2(3) 飛行機雲を撮影した日時の百葉箱の観測データを調べました。

日時	気温(°C)	湿度(%)	飛行機雲の残り方
10月 1日13時	21.5	61	すぐ消えた
10月15日13時	20.3	61	長く残った

このデータから、「湿度は関係していない」と考えることに対して、どのように判断することが最も適切ですか。

- ア 観測データの気温が異なるので、「湿度は関係していない」と言える。
- イ 観測データの気温が等しいので、「湿度は関係していない」と言える。
- ウ 湿度が異なる他の日を調べないと、「湿度は関係していない」と言えない。
- エ 飛行機雲の高さの湿度を調べないと、「湿度は関係していない」と言えない。

考えられる成果

●霧や雲の発生について観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて理解している。

正答率 32.8%
全国 28.5%

正答率が、全国の値より良かった問題です。(差4.3%)

これからの指導の方向性

☆授業で習った内容を、身近な現象と結びつけて考えることができるような発問を考えて解かせていきたい。

☆計算問題については、演習問題を多く取り入れ、小テストを行い定着を図ってきたい。

中学校 理科 課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる。

課題が見られる設問

【課題】【実験の結果】からどのようなグラフになるかを考えられるか。

5(2) 【課題】ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか。

【実験の結果】

力の大きさ(N)	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5・・・①
ばねの長さ(cm)	10.0	8.0	6.0	4.0	4.0	4.0・・・②
縮む長さ(cm)	0	2.0	4.0	6.0	6.0	6.0・・・③

【考察】に最も適したグラフを、選びなさい。

全てのグラフの横軸:「力の大きさ」

縦軸	取る数値	グラフ
A: 縮む長さ	①③	(0.3、6.0)で折れる線
B: ばねの長さ	①②	(0.3、4.0)で折れる線
C: ばねの長さ	①②と①③	AとBの2本のグラフ
D: 縮む長さ	①③	原点を通る線

考えられる課題

●課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身につけていない。

正答率 28.7%
全国 45.0%

正答率が、全国の値と一番差があった問題です。(差 -16.3%)

これからの指導の方向性

☆課題(実験目的)と考察を結びつけて考えることができていない。問題の全体を把握し、何を問われているのかを授業でも伝えていきたい。

☆値からグラフを作成する演習を取り入れていきたい。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)

考えられる課題

●家で勉強を全くしない生徒が、約6人に1人の割合でいる。

3時間以上	12.3%	2時間以上3時間未満	23.8%
全国	9.9%	全国	25.3%
1時間以上2時間未満	25.4%	30分以上1時間未満	14.8%
全国	34.3%	全国	17.0%
30分より少ない	7.4%	全くしない	16.4%
全国	8.5%	全国	4.9%

これからの指導の方向性

☆(10)(11)からも分かるように、「やると決めたらやり遂げる」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」生徒が多い。目標がしっかり決まれば、勉強にも目的意識ができ、集中した勉強時間が確保できる。また、キャリア教育を通して、将来の夢・目標、勉強する意味の意識づけを行う事により、落ち着いた学習環境を作り、班活動等を通して教え合いを行い、全く勉強をしない生徒を減らしていきたい。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(23) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

考えられる課題

● 読書を全くしない生徒が、約6割いる。

3時間以上	4.1%	2時間以上3時間未満	5.7%
全 国	4.6%	全 国	7.8%
1時間以上2時間未満	9.8%	30分以上1時間未満	10.7%
全 国	14.9%	全 国	21.3%
30分より少ない	9.8%	全くしない	59.0%
全 国	12.3%	全 国	39.0%

これからの指導の方向性

☆ 読書することにより、自分とは違う色々な考えとも出会う事ができ人生が広がる。少しづつでも読書の魅力を伝え、読む楽しさをわかってもらえるような取り組みを進めていく。また、問題をよく読むことにより、わかる問題、解ける問題が増える事にも気づかせ、読書する習慣の大切さに気づかせたい。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(38) 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

考えられる成果

●自分の考えを発表する機会があり、工夫することで表現力の向上につながる。

発表していた	17.2%	どちらかといえば発表していた	42.6%
全国	22.5%	全国	40.8%

発表していなかった	14.8%	どちらかといえば発表していなかった	18.9%
全国	10.4%	全国	23.8%

これからの指導の方向性

☆「発表していた・どちらかといえば発表していた」を合計した割合は59.8%と半数をこえ、全国の割合の63.3%に近づく結果となった。学校全体で班活動に取り組み、各教科で班活動を通して話し合う機会が増加したこと、自分の意見をまとめたり、班の仲間と交流することで自分の考えが深まったり、また自分の意見を発表する機会が増えた結果だと言える。これからも、授業の中での言語活動の充実をめざして、日々研究を推進していきたい。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(43)学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

考えられる課題

●思考力・判断力の向上

当てはまる 27.9%
全 国 34.1%

どちらかといえば当てはまる 36.9%
全 国 44.6%

当てはまらない 12.3%
全 国 4.6%

どちらかといえば当てはまらない 21.3%
全 国 15.1%

これからの指導の方向性

☆話し合う活動の活性化のためには、教科担当者が課題解決的な問いを投げかけること、また生徒一人ひとりが自分で考える時間を確保すること、他の人の意見をしっかり聴くことが大切である。道徳をはじめ、すべての教科で話し合いに必要な基本的な約束を共有し、ICT機器を上手く活用しながら、言語活動の充実のために日々研究を推進していきたい。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(10) 自分でやると決めたことは、やり遂げるようになっていますか。

考えられる成果

● 自己肯定感の向上

当てはまる 48.4%
全 国 36.8%

どちらかといえば、当てはまる 41.0%
全 国 49.8%

当てはまらない 1.6%
全 国 1.6%

どちらかといえば、当てはまらない 9.0%
全 国 11.8%

これからの指導の方向性

☆「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の割合が89.4%と全国の86.6%を上まわっている。特に「当てはまる」の割合は+11.6%と大きく上まわる結果となっている。本校生徒は体育大会、音楽会等行事はみんなで協力し、自分たちの力で成功させている。学習や卒業後の進路等も、しっかりと最後までやり遂げるように、キッチリと目標を持ちやる気を持たせて、指導していきたい。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(11) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか

考えられる成果

● 自己肯定感の向上

当てはまる 28.7%
全 国 21.4%

どちらかといえば当てはまる 45.1%
全 国 45.7%

当てはまらない 3.3%
全 国 5.3%

どちらかといえば当てはまらない 22.1%
全 国 27.6%

これからの指導の方向性

☆「当てはまる・どちらかといえばあてはまる」の割合が73.8%と全国の67.1%を6.7%も上まわっている。この設問の肯定的な回答をしている生徒が約3/4の割合にいるので、3/4の生徒が残りの1/4の生徒を引っ張って行ってほしい。また、将来の目標、勉強する意味等を見つける事ができれば、今まで以上の力を発揮してくれるに違いない。何事にも目標、意味を持って取り組ませたい。